

普通会計 財務4表からみた安来市(平成28年3月31日現在)

安来市が保有する資産(基金)・負債(地方債、債務負担)の状況はこれまでも予算、決算を通じて公表してきましたが、現金の動きしか把握することはできませんでした。

全ての財産と負債の状況をよりよく理解していただくため、財務4表を作成しました。

今後も中・長期的視野に立った自治体経営や情報の透明性を図りたいと考えています。

財務4表とは・・・

- ◆貸借対照表
 - ◆行政コスト計算書
 - ◆純資産変動計算書
 - ◆資金収支計算書
- の4つをいいます。

4つの表は矢印 のとおりそれぞれが関係しています。

貸借対照表

貸借対照表とは、年度末時点で保有している土地・建物などの資産と、それを形成する借入金などの調達財源(負債・純資産)の状況を示したものです。

資産の部 【これまで形成された資産】		負債の部 【将来世代の負担】		
1 公共資産	(1)有形固定資産 学校・道路等の土地・建物	908.8 億円	(1) 地方債 翌々年度以降の借入金返済額	299.2 億円
	(2)売却可能資産 未利用地など	5.0 億円	(2)退職手当引当金 全職員が退職した場合の必要額	47.5 億円
2 投資等	(1)投資及び出資金 株券・出資金等	3.7 億円	(3)損失補償等引当金 第三セクター等債務負担見込額	1.4 億円
	(2)貸付金 新規就農・災害援護の貸付など	3.5 億円	2 (1)翌年度償還予定地方債 翌年度の借入金返済額	34.1 億円
	(3)基金等 庁舎等建設基金など	75.5 億円	(2)賞与引当金 来年度の賞与の内今年度負担額	2.4 億円
	(4)その他 市税等長期の未収額など	1.1 億円	負債合計	384.6 億円
3 流動資産	(1)資金 うち、歳計現金	32.3 億円 5.7 億円	純資産の部 【これまでの世代の負担】	
	(2)未収金 市税・保育料等今年度未収額	0.3 億円	純資産合計	645.6 億円
資産合計		1,030.2 億円	負債及び純資産合計	1,030.2 億円

純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産(資産と負債の差額)の一年間の変動内容を示したものです。

期首純資産残高	641.1 億円
前年度の期末純資産残高	
当年度増減額	
純経常行政コスト =(経常行政コスト-経常収益)	△ 197.8 億円
調達財源	203.5 億円
市税・交付税・国県補助金など	
その他 資産評価替えによる変動など	△ 1.2 億円
期末純資産残高 =貸借対照表の純資産合計	645.6 億円

資金収支計算書

資金収支計算書は、1年間の現金の流れを示しています。

期首歳計現金残高	5.5 億円
前年度の歳計現金残高	
当年度増減額	
1. 経常的収支	50.6 億円
市税・交付税など - 人件費・物件費など	
2. 公共資産整備収支	△ 5.8 億円
公共資産整備に係る借入等 - 公共資産整備に係る支出	
3. 投資・財務的収支	△ 44.6 億円
貸付金回収・上記以外の借入等 - 借入金返済額・貸付金など	
期末歳計現金残高 =貸借対照表の歳計現金	5.7 億円

行政コスト計算書

行政コスト計算書は、資産形成につながらない人的サービスや給付サービスなど、1年間の行政サービスに費やされたコストとその行政サービスで直接得られた使用料・手数料などの財源を示したものです。

経常行政コスト	
1. 人にかかるコスト	42.3 億円
人件費・退職手当引当金繰入など	
2. 物にかかるコスト	75.2 億円
物件費・減価償却費など	
3. 移転支出的なコスト	86.4 億円
社会保障給付・補助金など	
4. その他のコスト	3.4 億円
支払利息など	
経常行政コスト合計	207.3 億円
経常収益	
使用料・手数料等	9.5 億円
施設使用料、各種証明手数料など	
経常収益合計	9.5 億円

純経常行政コスト (経常行政コスト-経常収益)	197.8 億円
----------------------------	----------

安来市の特徴

財務4表から以下のことがわかります。

分析指標(一例)	分析結果	
	H26年度	H27年度
◆ 市民一人あたりの 資産	248万円	256万円
◆ " 負債	91万円	96万円
◆ " 純資産	158万円	161万円
◆ これまでの 世代の負担	64%	63%
◆ これからの "	36%	37%
◆ 有形固定資産減価償却率	52%	53%
◆ 受益者負担の割合	4%	5%

※詳しくは「新地方公会計制度に基づく総務省方式改訂モデルによる 安来市の財務書類」をご覧ください。